

4 キャリア養成支援における進路指導 —実習成績と就職試験結果との関係について 第I報—

○相馬泰栄, 中澤孝敏, 植木一範

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : キャリア養成支援, 進路指導, 実習成績, 就職試験

はじめに

平成19年度より歯科技工士学科においてもキャリア養成支援が一般教育科目として取り入れられることになった。しかし、本学科生の進路への関心は薄く、将来への目的意識も乏しいため、安易な離・転職傾向が多数見られた。その為、進路指導を担当する立場から学生の職業意識を高め、社会で働く心構えを早期に自覚させることが急務であると考え、今回、学生の就職試験の現状を把握し、今後の進路指導に活用するため、実習成績と就職試験結果との関係について調査し、検討した。

対象および方法

平成15年度から18年度に歯科技工士学科を卒業した学生の内、2年次の進路調査当初より、就職を希望した学生186名を対象に、2年次の実習成績をそれぞれ、優(20%)、良(60%)、可(20%)に分け、実習成績と就職試験結果(受験回数)との関係について比較検討した。また、歯科技工以外の職種を選択した学生や就職を希望しながら就職活動を行わない学生の実習成績と就職受験回数との関係についても検討した。ただし、進学を希望した学生は調査対象より除いた。

結果

本学科においては卒業生の約86%~95%の学生が就職を希望した。特にこの数年、就職を希望する学生が増加する中で、求人数も大幅に増加したが、歯科技工士として就職した学生は就職希望者の約80%~87%で、この数年は横ばい状態にある。また、就職試験後、就職希望者の実習成績と受験回数との関係を比較すると実習成績下位の学生ほど受験回数も多い結果となった(図1)。実習成績(優)の学生には就職活動を行わない学生や他業種を選択する学生は見られなかった。しかし、実習成績下位の学生ほど他業種を選択する傾向

が高く、受験回数も多くなる傾向が見られた(図2)。

また、実習成績下位の学生ほど積極的に就職活動を行わない傾向が高いことが分かった。(図1・図2)

まとめ

以上の結果から技術力の低い学生ほど就職試験の受験回数も多く、また、他業種を選択することから、学生の技術力を図ることが急務であることから、学生の技術レベルに応じた実技指導を実施することや早期の進路指導を実施し、学生の職業意識を高めることも必要である。また、学生のモチベーションを持続させるための指導と支援が必要ではないかと思われる。今回の調査結果を今後の進路指導に活用していきたい。

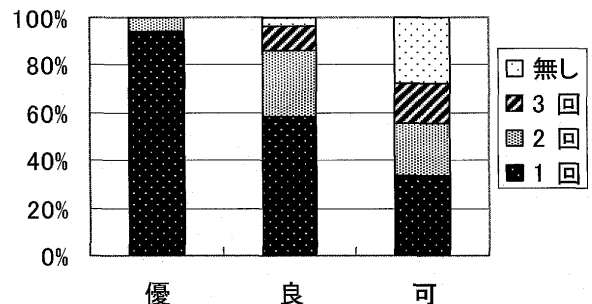


図1 実習成績と就職受験回数との関係

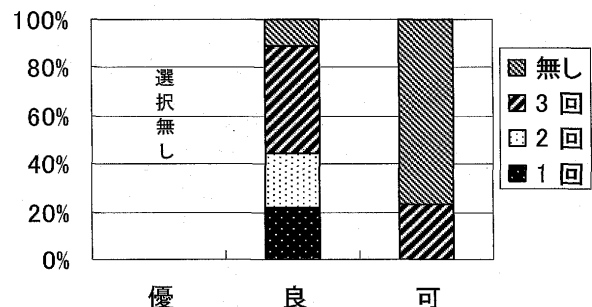


図2 他業種選択者の実習成績と受験回数